

特集陳列

日本の仮面

人と神仏、鬼の多彩な表情



二月二日の節分には鬼の仮面をかぶった人に向けて「鬼は外」と豆まきをしますね。この行事は、追儺会^{ツナヰ}と言って、飛鳥時代^{アスカ時代}に唐(中国)から伝わりました。神社や寺の中には中世の鬼の面を伝えているところがあります。

祭りの出店でききこまなヒーロー、アニメのキャラクターの仮面が売られています。それを着てヒーローに变身し、遊んだ記憶はみなさんにもあるでしょう。昔から、世界各地で作られた仮面も神々や精霊などに变身するためのものです。

社寺に伝来した仮面の多くは、法要の時に用いられたものです。仏前で奉納される伎楽^{ギガク}・舞楽は仮面を着け、音楽に合わせて舞う劇です。また、高僧^{ゴウソウ}のいるは舍利^{セリ}を戴^{かぶ}せた奥^{おく}を担^{かか}ぐ人、それに付き随^{ずい}う人をも仮面を着けて練り歩いて、仏事に華やかさを加えました。室町時代の初めに世阿弥^{セアミ}によって大成された能^ノ・狂言は仏事に起源がある芸能で、老若男女、鬼神、動物など多彩な面が用いられました。

日本は世界でも指折りの仮面大国です。そのさまざまな形と歴史をご覧ください。

2015年

6月9日(火)―7月20日(月・祝)

京都国立博物館 平成知新館

特別展示室(1F・2)

伎楽面

ぎがくめん

① 伎楽面 迦楼羅 京都国立博物館



ぎょうどうめん

伎楽は、推古天皇二十年（六一二）に朝鮮半島の百濟から伝わり、飛鳥時代から奈良時代にかけて奈良の大寺で盛んに行われました。法隆寺に伝来した仮面（東京国立博物館所蔵）が最も古く、東大寺と正倉院には大仏開眼供養会で使われた仮面が多数所蔵されています。

この仮面は裏に「綱封蔵 花厳」と墨で書かれています。綱封蔵は東大寺の蔵である正倉院の南倉のこと、花厳は東大寺で行なわれた華厳会のことです。つまりこの仮面は東大寺にあったものとわかります。

行道面



行道面 十二天のうち②自在天・③帝釈天・④火天・⑤日天・⑥梵天・⑦風天・⑧多聞天 京都国立博物館

行道面 八部衆のうち⑨迦楼羅・⑩阿修羅

十二天面の裏に「応徳三年十月廿日 御塔供養修理二建武元年九月廿四日 東寺塔供養時修理之」と墨で書かれています。応徳三年（一〇八六）と建武元年（一二三四）に行なわれた東寺の塔供養法会の際に修理して用いられたことがわかります。制作は十世紀と考えられます。

八部衆の面には銘文がありません。十二天面とは作風が異なり、写実的で表情に迫力があることから、鎌倉時代の作と考えられます。建武元年の法会に合わせて作られたものでしょう。

塔供養会の際に、阿闍梨が乗った輿を八部衆面を着けた人々が担ぎ、その左右に各六人ずつ十二天面を着けた人が随ったと記録に見えます。

⑬ 行道面 王舞 滋賀・久留美神社
⑭ 行道面 師子口取 京都・東寺



⑮ 行道面 師子子 京都・東寺

これらの仮面は、行列の先頭に立って道を清める役割を果たします。

王舞は天孫降臨の時の先導者である猿田彦の顔を写したもので、鼻が高く赤い顔をしています。応永十五年（一四〇八）栗見本庄（現在の彦根市本庄町周辺）の十禅師社（久留美神社の旧名）に奉納されたものです。

師子口取は師子（獅子）の手綱を取り、師子子は、団扇を持って蠅を払う子どもです。獅子頭があつたはずですが、残っていません。東寺所蔵のこの面は、建武元年の塔供養会のために作られたと考えられます。

⑯ 行道面 多聞天

多聞天の仮面はふつう冠と頭髪を彫刻しますが、この面は髪を黒漆で描いています。肉付きが豊かで写実的な作です。裏に「多聞天／正中元年十二月／別当法印／院通／施入之／東方」と墨書があります。これとよく似た銘文の持国天面があつたことが知られますから、持国天と多聞天あるいは四天王の揃いで作られた可能性があります。正中元年（一二三四）の作。

⑰ 行道面 毘沙門天 京都・丹後国分寺

⑱ 行道面 鬼 京都・丹後国分寺

⑲ 行道面 伝宣基上人 京都・丹後国分寺

丹後国分寺（宮津市）に伝来した仮面です。同寺には伝説があり、嘉暦三年（一二三二）の歳の暮れに老夫婦が宣基上人のもとを訪れ、仏道を修めたいと申し出て、寺の雑事を手伝いましたが、ある夜、上人は外泊する予定でしたが用件が済んだので寺に戻ると、酔って寝て



- 23 能面 翁 (おきな)
- 24 能面 父尉 (ちちのじょう)
- 25 能面 三番叟 (さんばそう)
- 26 能面 延命冠者 (えんめいのかし)

いた夫婦は異形を現していました。翌朝、上人が慰留しても夫婦は自らの顔を刻んだ仮面を残して去って行った、という話です。鬼面が嘉暦まで遡るか微妙なところですが、愛嬌のある顔が伝説の老夫婦にふさわしいと言えるでしょう。

毘沙門天の面は裏に「金光明寺／修正□□」と墨で書いてあります。鬼を追い出す役の面として修正会で用いられたのでしょう。完成度の高い造形で、鎌倉時代前半の作と考えられます。(写真は表紙)

20 行道面 菩薩 兵庫・桑野本区
21 行道面 菩薩 京都・光明寺
22 行道面 菩薩 京都・十輪寺

菩薩の面は種々の供養会で登場する菩薩に用いる場合と、阿弥陀如来と二十五菩薩が来迎する様子を表した来迎会で用いる場合があります。来迎会は今も京都・即成院・奈良・當麻寺などで行なわれています。

桑野本区の仮面は、目、鼻、口が小さく彫りが浅いおとなしい表情です。平安時代後期の典型的な作例です。

光明寺には三面同様の菩薩面が伝わっています。面裏に「三面共／うんけい作」と書いてありますが、平安時代末期から鎌倉時代初期の保守的な仏師の作です。

十輪寺の仮面は髪のにぎやかな表現に鎌倉時代の特色があらわれています。眉を削り抜き、口をかすかに開いています。



能面

のうめん



翁の舞は平安時代に始まったと考えられます。「翁は能にして能にあらず」と言われ、天下泰平・五穀豊穡などを祈念し祝う、筋書きのない舞です。寺院の修二会(東大寺のお水取りなど)の際に行なわれ、古くは翁、父尉、三番叟、延命冠者がつぎつぎに登場しましたが、翁、千歳(仮面を着けないで舞う)、三番叟に改められました。

延命冠者を除く三者は上顎と下顎を切り離して紐で繋いでいるので舞うと口が動きます。こうした技法は舞楽面に通じます。

27 能面 猿癡見 (さるべしめ)
癡見とは口をへの字に閉める表情を言います。この面は銘文により、現在の熊本県八代の住人である幸重が文明七年(四七五)に般若寺山王宮へ寄進したことがわかります。霧島連峰に囲まれた現在の鹿児島県湧水町にある般若寺のことと考えられます。日吉神は山王権現と呼ばれました。猿は日吉神の使いなので、この面を奉納したのでしょう。

28 能面 小面 (こおもて) 国(文化庁保管)
29 能面 般若 (はんにや) 国(文化庁保管)

小面は若い女性の役に用いる面。この面は下彫りで顎が少し角張っています。瞳の孔が大きめで四角の底辺が少したわむので明るい表情に見えます。

般若(はんにや)は額に血管を浮彫りし、下顎が獣のように変化しています。蛇に変身しつつあるところでしょう。角、眼、歯に鍍金した銅板を使っています。角は金泥を塗るのが普通ですが、木を芯にして銅板を巻いている点がこの面の特色です。

No.	指定 名称	員数	時代・世紀	所蔵
1	伎楽面 迦楼羅 東大寺伝来	1面	奈良時代 8世紀	京都国立博物館
2	重文 行道面 自在天 東寺伝来	1面	平安時代 10世紀	京都国立博物館
3	重文 行道面 帝釈天 東寺伝来	1面	平安時代 10世紀	京都国立博物館
4	重文 行道面 火天 東寺伝来	1面	平安時代 10世紀	京都国立博物館
5	重文 行道面 日天 東寺伝来	1面	平安時代 10世紀	京都国立博物館
6	重文 行道面 梵天 東寺伝来	1面	平安時代 10世紀	京都国立博物館
7	重文 行道面 風天 東寺伝来	1面	平安時代 10世紀	京都国立博物館
8	重文 行道面 十二天 多聞天 東寺伝来	1面	平安時代 10世紀	京都国立博物館
9	重文 行道面 八部衆 迦楼羅	1面	鎌倉時代 14世紀	京都・東寺
10	重文 行道面 八部衆 阿修羅	1面	鎌倉時代 14世紀	京都・東寺
11	行道面 八部衆 乾闥婆 東寺伝来	1面	鎌倉時代 14世紀	滋賀・久留美神社
12	行道面 天 東寺伝来	1面	鎌倉時代 14世紀	滋賀・久留美神社
13	行道面 王舞	1面	室町時代 応永15年(1408)	京都・東寺
14	重文 行道面 師子口取	1面	鎌倉時代 14世紀	京都・東寺
15	重文 行道面 師子子	1面	鎌倉時代 14世紀	京都・東寺
16	行道面 多聞天	1面	鎌倉時代 正中元年(1324)	京都・東寺
17	行道面 毘沙門天	1面	鎌倉時代 13世紀	京都・国分寺
18	行道面 鬼	2面	鎌倉・南北朝時代 14世紀	京都・国分寺
19	行道面 伝宣基上人	1面	鎌倉・南北朝時代 14世紀	京都・国分寺
20	行道面 菩薩	1面	平安時代 12世紀	兵庫・桑野本区
21	行道面 菩薩	1面	平安・鎌倉時代 12世紀	京都・光明寺
22	行道面 菩薩	1面	鎌倉時代 13世紀	京都・十輪寺
23	能面 翁	1面	室町時代 15世紀	京都・十輪寺
24	能面 父尉	1面	室町時代 15世紀	京都・十輪寺
25	能面 三番叟	1面	南北朝・室町時代 14～15世紀	京都・十輪寺
26	能面 延命冠者	1面	室町・桃山時代 16世紀	京都・十輪寺
27	能面 猿鵂見	1面	室町時代 文明7年(1475)	京都・十輪寺
28	能面 小面 前熊コレクシヨン	1面	江戸時代 17世紀	国(文化庁保管)
29	能面 般若 前熊コレクシヨン	1面	江戸時代 17世紀	国(文化庁保管)
30	狂言面 毘沙門	1面	室町時代 16世紀	京都・浦嶋神社
31	狂言面 祖父	1面	室町時代 16世紀	京都・浦嶋神社
32	狂言面 うそぶき	1面	室町時代 16世紀	京都・浦嶋神社
33	老翁面	1面	室町時代 15～16世紀	京都・浦嶋神社
34	老翁面	1面	室町時代 永禄4年(1561)	滋賀・長浜八幡宮

【狂言面】

きょうげんめん



③②

③② 狂言面 うそぶき 京都 浦嶋神社

丹後半島にある浦嶋神社は浦嶋太郎の伝説がある古い神社で、『延喜式』に載せられている式内社です。型にはまらない独特の表情で、素朴ですが滑稽な表情を見ると、人々の笑いが聞こえて来そうです。

口をすばめた「うそぶき」は狂言では蚊や動物の精霊の役に用いますが、奈良時代の伎楽面、平安時代の舞楽面にもある表情です。

【老翁面】

ろうおうめん



③③

③③ 老翁面 長浜八幡宮

この仮面は室町時代の作ですが、能・狂言面に類例がなく、田楽など他の民間芸能に関わるものかもしれません。裏に永禄四年(一五六一)の銘があります。若荷のような形の目で少し困ったような顔をしています。

触つてみよう！日本の仮面

平成知新館に設置されている、文化財のレプリカや材料見本などを揃えた「ミュージアム・カート」特集陳列「日本の仮面」の開催にあわせ、彫刻のカートに3Dプリンターで制作した「行道面 梵天」(重要文化財、京都国立博物館)と「行道面 王舞」(滋賀・久留美神社)のレプリカが新たに加わりました。手にとって細部を見るなど、展示とあわせてお楽しみください。

●日本の仮面「関連」講座
6月20日(土)「京都周辺の古面」
講師 浅見龍介(京都国立博物館上席研究員)
会場 平成知新館 講堂(地下1階)
時間 午後1時30分から午後3時
定員 200名

聴講料 無料(ただし、観覧券が必要です)
当日12時より平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布します。定員になり次第整理券配布を終了いたします。

京都国立博物館 東山七条

KYOTO NATIONAL MUSEUM

京都市東山区茶屋町5227
TEL 075-525-2247 (予約サービス)
<http://www.kyohaku.go.jp/>